

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 27 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370571

研究課題名(和文) 日本語学習者を対象とする文語文読解教育の実態調査および教材開発

研究課題名(英文) Creating Teaching Materials for Non-Native Learners of Classical Japanese on the Basis of Surveys on the Actual Conditions of Classical Japanese Reading Education

研究代表者

佐藤 勢紀子 (SATO, SEKIKO)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・教授

研究者番号：20205925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本語学習者を対象とする文語文教育についての実態調査を行い、e-learning教材(試作版)を開発した。本教材は、教師と学習者双方のニーズに応え、教室でも自習でも使用可能な教材とするため、オンデマンド方式で容易に使用できる体系的で包括的なプログラムとして完成させることを目指している。

現時点で試作版教材の素材セクションには5つの章があり、各章の構成は、本文、注釈、朗読、文法、小テスト、語釈付き本文、現代語訳、語釈リスト、小テストの解答となっている。また、参照セクションは、用言一覧、助動詞一覧、助詞一覧、文法解説、語彙リスト、作品解説、コラム集、資料集、現代に残る古語で構成されている。

研究成果の概要(英文)： We developed a trial version of e-learning materials for non-native learners of classical Japanese on the basis of actual conditions surveys on the classical Japanese education. The purpose of the new type of bungo learning material is to offer an on-demand-based, easy to use, systematic and full-scale program to accommodate the needs of instructors and non-Japanese students, both for the classroom and for self-study.

At this time, five chapters of materials are online as a trial version. Each text is presented in the following format: [original text]-[annotation]-[recitation]-[grammar]-[exercise]-[text with gloss]-[modern Japanese translation]-[gloss list]-[answer for exercise]. In addition, the reference section includes:[list of declinable words]-[table of auxiliary verbs]-[table of particles]-[grammar explanation]-[vocabulary list]-[description of the texts]-[literary columns]-[materials]-[classical Japanese aspects in modern Japanese].

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語学習者 文語文 古典教育 読解教材 e-learning 日本文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 文語文教育をめぐる状況

日本学研究を志す者を中心に、近代以前の文語文を読む能力を身につけたいという要望を持つ日本語学習者は常に一定数存在する。しかしながら、日本では文語文読解の基礎は高校までの中等教育で教えられていることから、特に日本語学習者のために初歩からの文語文読解教育を行なっている高等教育機関は限られており、日本に留学している学習者でも文語文読解の訓練を受ける機会に恵まれないケースが多い。まして海外の日本語教育機関においては、日本の古典を現地語で教えることはあっても、文語文読解の教育まで行なっているケースは稀である。

(2) 先行研究

文語文教育についての調査

日本語学習者を対象とする文語文読解教育の実施状況の調査に関しては、研究開始当初まで、楊金萍(2003)「中国における日本語古典教育の現状と将来」(『国文学解釈と鑑賞』68-7)、坂内泰子(2004)「留学生と文語文読解の必要性」(『神奈川県立外語短期大学紀要総合篇』27)を除き、国内外の複数の教育機関もしくはその出身者を対象とした包括的な研究は行われていなかった。広範な実態調査を早急に行ない、文語文読解教育に関する教育機関と学習者のニーズを明確に把握する必要があった。

教授法・教材についての研究

また、文語文読解の教授法や教材についても、十分な研究の蓄積があるとは言い難い状況であった。たとえば、日本語学習者に対する文語文法の指導法および教材については、個々の教育機関での実践をふまえたいくつかの報告があるが、国内外の教育機関、あるいは学習者個人が広く利用できる文語文法導入シラバスの構築にはつながっていない。また、佐藤勢紀子(2003)「多文化クラスで読む『源氏物語』 古典を用いた多文化教育の試み」(『インターカルチュラル：日本国際文化学会年報』1)、高橋久子ほか(2005)「留学生対象科目としての古典の位置付けと実践例 東京学芸大学における日本語教育の場合」(『国際教育評論』2)など、多様な文化圏からの学習者を対象とする古典を用いた授業の実践報告もあり、古典素材を多文化教育、留学生教育で扱うことの可能性が示唆されているが、これらは文語文読解技能の育成について具体的な方法を提示したものではない。

(3) 研究の必要性

報告者は、長年日本語学習者に対する古典教育を行なってきた立場から、上に述べたような状況を打開するためには、古典教育・文語文教育を実施している教育機関や

授業担当者が有する知見を集積し、同時に授業担当者および学習者のニーズを明らかにすることによって、体系的で効果的な文語文読解教育のシラバス、教授法、そしてそれらを反映した教材を広く 学習者個人も利用可能な形で 提供することが必要ではないかと考えるに至った。

2. 研究の目的

上述の背景により、本研究では、国内外の日本語教育機関での文語文読解教育(古典教育および近代文語文の教育を含む)の実態を調査した上で、日本学専攻者を中心とする日本語学習者のための総合的・体系的な文語文読解教材を開発し、e-learning教材として利用に供することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 文語文教育についての実態調査

文語文読解教育に関する研究資料を収集し、先行研究を整理した。

文語文教育についてのインタビュー調査(半構造化インタビュー方式)の質問項目を設定し、非母語話者の日本学研究者を中心とする文語文学習者を対象としてインタビュー調査を実施した。

文語文教育についてのアンケート調査の調査票を作成し、 の補助的な調査という位置づけで調査を実施した。

および の調査の結果を文字化し、分析を行なった。

(2) 教材の開発

実態調査の結果をもとに、文語文 e-learning 教材全体(素材セクションおよび参照セクション)の構成を定めた。

研究組織メンバーが実施してきた古典教育、文語文教育での知見および実態調査の結果から、開発教材における素材(テキスト)選定の方針を策定し、それにしたがって試作版で取り上げる素材を選定した。

実態調査の結果をもとに、教材の参照セクションに取り入れる内容について検討した。

上記①～③により開発した教材のコンテンツを既存の e-learning プラットフォームに載せた。

4. 研究成果

(1) 既存の文語文教材の確認

先行の研究資料を収集した結果、総合的・体系的な教材ではないが、単一の素材を扱ったオンライン教材、漢字系学習者対象の「日本古典文学」サイトなど、海外で開発された文語文 e-learning 教材がいくつかあることが判明した。

(雑誌論文)

(2) 非漢字圏におけるニーズの把握

非漢字系の日本学研究者、学習者を対象とするインタビュー調査、アンケート調査を通じて、次の示唆が得られた。

留学生のみならず、海外で日本語を学習している学習者にも広く使用してもらえる教材を作成することが必要である。そのためには e-learning 教材として開発することが望ましい。

対象とする時代や資料のジャンルが多岐にわたるため、従来の日本における古典入門教材の枠にとらわれず、どの時代のどのような種類の資料を読む場合にも効率的に使用できる教材が求められる。

教材の学習項目としては、特に助動詞を中心とする活用語の活用、接続、用法を重点項目としてしっかり学習/指導できるようにするのがよい。

(雑誌論文)

(3) 漢字圏におけるニーズの把握

漢字系の日本学研究者、学習者を対象とするインタビュー調査、アンケート調査を通じて、次の示唆が得られた。

母国での教育体制として、一定程度の文語文教育を行っている機関もあるが、本格的な文語文教育を行っている機関は限られており、日本に留学してもそれを受けられる保証はないことから、特に日本研究を目指す学習者に対して、個々の必要に応じて自習に利用できる教材を提供することが求められる。

中国では、日本研究を目指す学習者のみならず、日本語検定試験 8 級受験者も文語文学習を必要としていることから、中国の教育機関で、また学習者個人でも広く使用してもらえる教材を作成することが必要である。そのためには、紙媒体の教材よりは e-learning 教材として開発することが望ましい。

学習上特に困難な点として、助詞および助動詞の用法が挙げられており、特にその点に配慮した教材作りが必要である。

(雑誌論文 、)

(4) 教材全体の構成の決定

上記の調査結果をふまえて、開発する教材の構成を次のように定めた。

素材セクション

- ・ カバーページ
- ・ 本文ページ
本文、注釈、朗読、文法
- ・ 問題ページ
小テスト
- ・ 現代語訳ページ
語訳付き本文、現代語訳、語訳リスト、問題解答

参照セクション

- ・ 用言一覧 (動詞分類対照表付き)

- ・ 助動詞一覧
- ・ 助詞一覧
- ・ 文法解説
- ・ 語彙リスト
- ・ 作品解説
- ・ 資料集
- ・ コラム集
- ・ 現代に残る古語

(雑誌論文)

(5) 素材の選定方針の決定

研究組織メンバーが実施してきた古典教育 (雑誌論文 、 、 、) 文語文教育から得られた知見および実態調査の結果から、開発教材における素材 (テキスト) 選定の方針を以下のように定めた。

平明でわかりやすい内容・文章の素材を選ぶこと

母語話者対象の古典教育で定番の素材を取り入れること

大人が知的関心を持てる素材を取り入れること

相互に関連を持つ素材による「複合教材」の実現を目指すこと

全体として、時代、ジャンル、形式の多様性を確保すること

(雑誌論文 、 学会発表)

(6) 素材の選定

上記(5)の選定方針にもとづき、試作版で取り上げる 5 つの素材を選定した。

- ・ 「故郷」(文部省唱歌)
- ・ 「ちごの空寝」(『宇治拾遺物語』)
- ・ 「春はあけぼの」(『枕草子』)
- ・ 「二十日の夜の月」(『土佐日記』)
- ・ 「翻訳苦心談」(『蘭学事始』)

(雑誌論文)

(7) 試作版教材の開発

開発した教材のコンテンツを既存の e-learning プラットフォーム ((一財)東北多文化アカデミーの管理下にある「Feit eラーニングシステム」のプラットフォーム)に載せ、試作版教材を開発した。本教材には次の機能がある。

情報のポップアップ表示

ルビ、語釈などの情報がポップアップで表示されるようになっている。

動作 (ページ移動)

ページ移動による参照システムを随所に取り入れた。以下に移動の例を挙げる。枠線で囲った箇所が彩色表示されている場合、これをクリックすることでページ移動が実行され、その箇所に該当する部分が表示される。

作品名
コラム

作品解説
コラム集

資料	資料集
文法の語法項目名	文法解説
文法の助動詞名	語彙リスト
文法の助詞名	語彙リスト
文法の語句	語彙リスト
語釈付き本文の語句	語彙リスト
語彙リスト	例文
	語釈付き本文

成績管理

小テストの成績は問題ごとの点数と合計点が自動採点され、学習者自身が問題ページの最後で確認できるシステムになっている。また、管理者 ID を有する利用者には、その管理下にある学習者の受験期間、成績等が一覧の形で閲覧できる仕組みになっている。

(雑誌論文)

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 10 件)

佐藤 勢紀子、古典を通じた中日言語・文化交流、東北アジア国際語言文化研究基地 2015 年次大会記念論文集、査読無、印刷中

佐藤 勢紀子、虫明 美喜、楊 錦昌、小野 桂子、押谷 祐子、非母語話者を対象とする日本語文語文 e-learning 教材試作版の開発、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要、査読有、3 巻、2017、pp.307-320、http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=700

佐藤 勢紀子、潘 鈞、楊 錦昌、小野 桂子、ALDO TOLLINI、海外における日本語文語文教育の現状 パネル・ディスカッション報告、東北大学言語・文化教育センター年報、査読無、2 巻、2017、pp.7-14、<http://www.ccle.ihe.tohoku.ac.jp/activity/>

佐藤 勢紀子、串田 紀代美、高橋 章則、小野 桂子、楊 錦昌、日本学専攻者を対象とする文語文教育、専門日本語教育研究、査読有、18 巻、2016、pp.55-60

佐藤 勢紀子、虫明 美喜、楊 錦昌、小野 桂子、文語文を素材とした日本語・日本文化教育、2016 年度日本語教育学会春季大会予稿集、査読有、2016、pp.78-89

佐藤 勢紀子、虫明 美喜、文語文読解教材開発に向けての指針 中国・台湾の日本学研究者への調査から、日本語教育と日本学研究 大学日語教育研究国際研究会論文集 (2015)、査読有、2016、pp.12-16

佐藤 勢紀子、文語文読解の授業 日本文化演習 (古典入門) 実践報告、東北大学言語・文化教育センター年報、査読無、1

巻、2016、pp.19-25、<http://www.ccle.ihe.tohoku.ac.jp/activity/>

佐藤 勢紀子、文語文を学ぶ漢字系学習者が困難を感じる点 中国・台湾の日本学研究者に聞く、アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル、査読有、7 巻、2015、pp.25-32、<http://academicjapanese.jp/ajj.html#list02>

佐藤 勢紀子、文語文を学ぶ日本語学習者が困難を感じる点 非漢字系日本学研究者に聞く、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要、査読有、1 巻、2015、pp.163-172、<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page-id=700>

佐藤 勢紀子、留学生を対象とする古典入門の授業 日本語学習者のための文語文読解教材の開発を目指して、東北大学高等教育開発推進センター紀要、査読有、9 巻、2014、pp.99-113、<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page-id=700>

[学会発表](計 5 件)

佐藤 勢紀子、虫明 美喜、小野 桂子、E-learning Materials for Non-Native Learners of Classical Japanese、Association for Asian Studies、招待発表、2017 年 3 月 17 日、Toronto Sheraton Centre (トロント、カナダ)

佐藤 勢紀子、虫明 美喜、日本語学習者を対象とした文語文 e-learning 教材の開発、日本語教育学会、2016 年 10 月 8 日、ひめぎんホール (松山)

佐藤 勢紀子、虫明 美喜、楊 錦昌、小野 桂子、文語文を素材とした日本語・日本文化教育、日本語教育学会、2016 年 5 月 21 日、目白大学 (東京)

佐藤 勢紀子、古典を通じた中日言語・文化交流、国際シンポジウム 言語・文化の交流と発展、招待講演、2015 年 9 月 11 日、吉林大学 (長春、中国)

佐藤 勢紀子、日本語学習者が求める文語文読解教材 中国・台湾の日本学研究者への調査から、2015 年度日本語教育と日本学国際シンポジウム、2015 年 5 月 16 日、上海理工大学 (上海、中国)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 勢紀子 (SATO, SEKIKO)
東北大学・高度教養教育・学生支援機構・教授
研究者番号：20205925

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

森 真理子 (MORI, MARIKO)

京都大学・国際教育支援室・上席専門業務
職員

研究者番号：30230080

高橋 章則 (TAKAHASHI, AKINORI)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10187990

曽根原 理 (SONEHARA, SATOSHI)

東北大学・学術資源研究公開センター・助
教

研究者番号：30222079

(4)研究協力者

虫明 美喜 (MUSHIAKE, MIKI)

宮城教育大学・教育学部・特任准教授

小野 桂子 (ONO, KEIKO)

プリンストン大学・東アジア学部・講師

押谷 祐子 (OSHITANI, YUKO)

東北多文化アカデミー・代表理事

東北大学・高度教養教育学生支援機構・非
常勤講師

副島 昭夫 (SOEJIMA, AKIO)

(元)麗澤大学・教授

矢澤 理子 (YAZAWA, MICHIKO)

国際交流基金関西国際センター・日本語教
育専門員

楊 錦昌 (YANG, CHIN CHANG)

天主教輔仁大学・外語学院・副教授

トリーニ, アルド (TOLLINI, ALDO)

ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学・

アジア・北アフリカ研究学科・准教授

潘 鈞 (PAN, JUN)

北京大学・外国語学院・教授

郭 連友 (GUO, LIAN YOU)

北京外国語大学北京日本学研究センター・
教授

劉 曉芳 (LIU, XIAO FANG)

同済大学・外国語学院・教授

林 瓚洙 (LIM, CHAN SOO)

中央大学校・教授